

頭蓋内動脈の狭窄があるハイリスク患者には ステント植込み術よりも積極的な薬物治療が効果的

頭蓋内動脈の狭窄の再発予防に対するステント植込み術と積極的な薬物治療の効果について、先の報告では、30日間で死亡または再発発作がみられたのはステント植込み群では224人中33人(14.7%)、薬物治療群では227人中13人(5.8%)であったが、ステント植込み術に長期的効果がないと確証するには不十分なデータであった。そこで、本研究ではさらに長期的効果について検討した。

70–99%の確率で頭蓋内動脈の狭窄によるものとされる一過性虚血性発作または脳卒中患者451人に対し、1:1の割合で積極的薬物治療(抗血小板治療、血管の危険因子の管理、生活習慣の改善のためのプログラム)または積極的薬物治療にWingspanステント植込み術を組み合わせた治療とに割り付けた。32.4カ月(中央値)の追跡期間中に、薬物治療群で227人中34人(15%)、ステント植込み群で224人中52人(23%)が死亡または再発となった。両群間の死亡または再発率の差は1年目で7.1% ($p=0.04$)、2年目で6.5% ($p=0.07$)、3年目で9.0% ($p=0.02$)であった。有害事象の発生率は薬物治療群よりもステント群で高く、脳卒中が26%対19% ($p=0.05$)、出血が13%対4% ($p=0.0009$)であった。

したがって、頭蓋内動脈の狭窄のあるハイリスク患者に対して積極的な薬物治療を行うほうが、Wingspanステント植込み術を行うよりも短期的にも長期的にも予後がよいことが示された。

出典：The Lancet. 2014; 383: 333-341